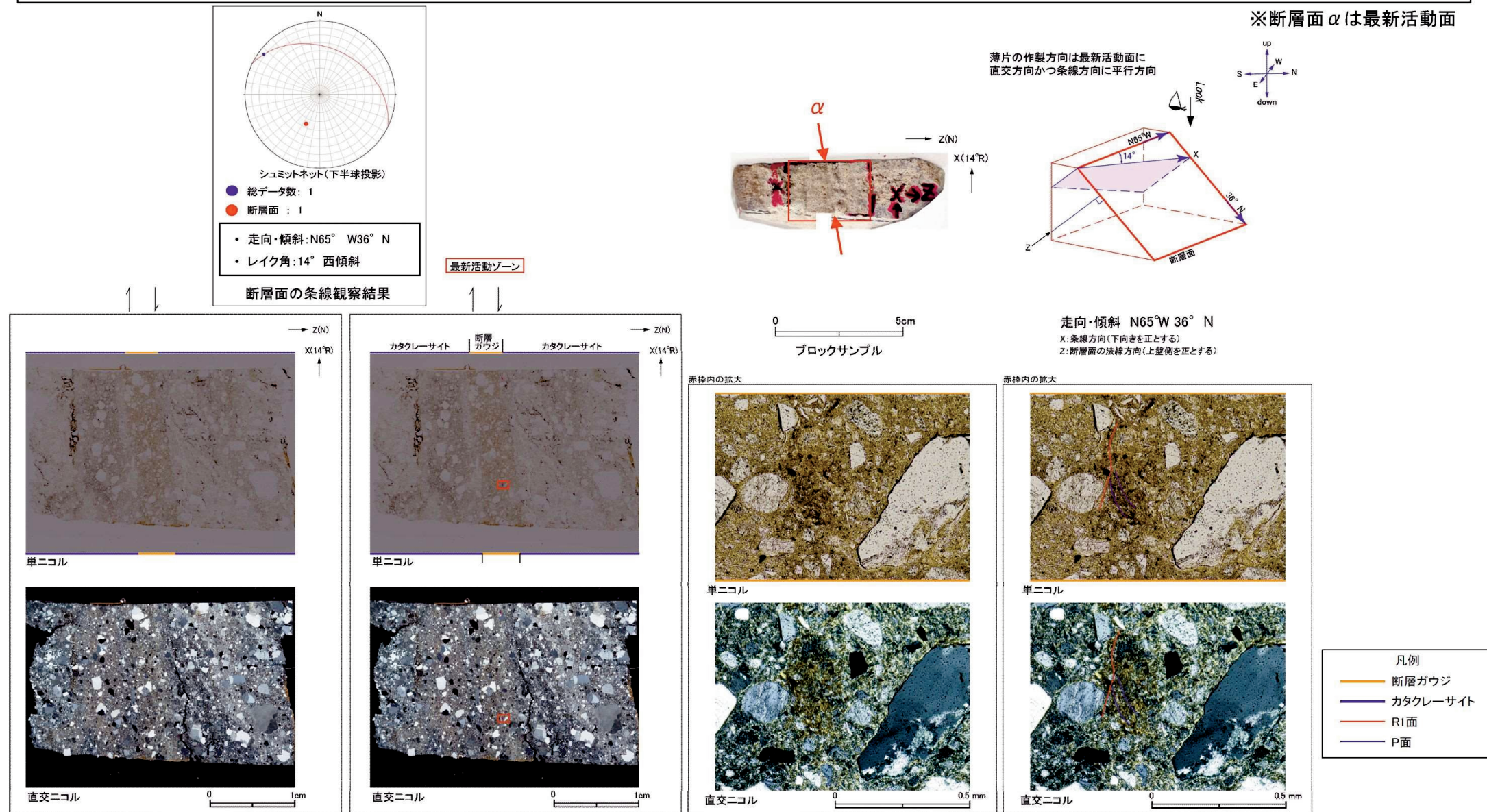


H27-B-1 深度42.41~42.49m 最新活動面の深度 (No.32) の変更に伴い、薄片試料 (No.35-1) を再作製し、観察した結果、変位センス (No.35-2) を右ずれセンスに変更

- 従前提示していた「右ずれ正断層センス」は、変更前の最新活動面の深度 (42.43m) 及び条線 (45L) で作製したものであったため、最新活動面の深度及び条線の変更に伴い、再作製した薄片試料の観察結果である「右ずれセンス」に変更となる。

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。





H27-B-1 深度44.24~44.53m 全景写真の記載 (No.36) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造について

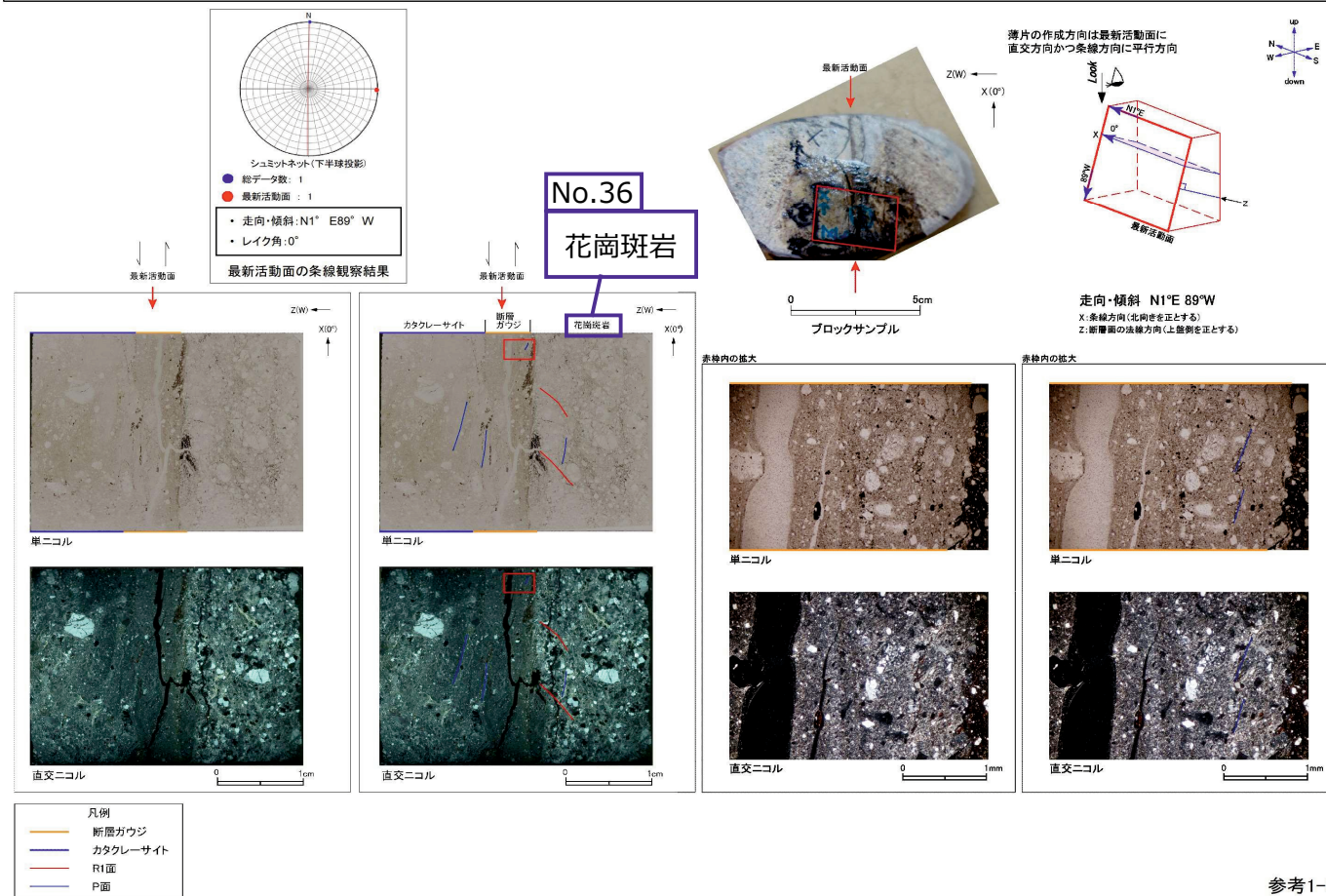
参考資料 1 薄片観察結果

参考1-230頁

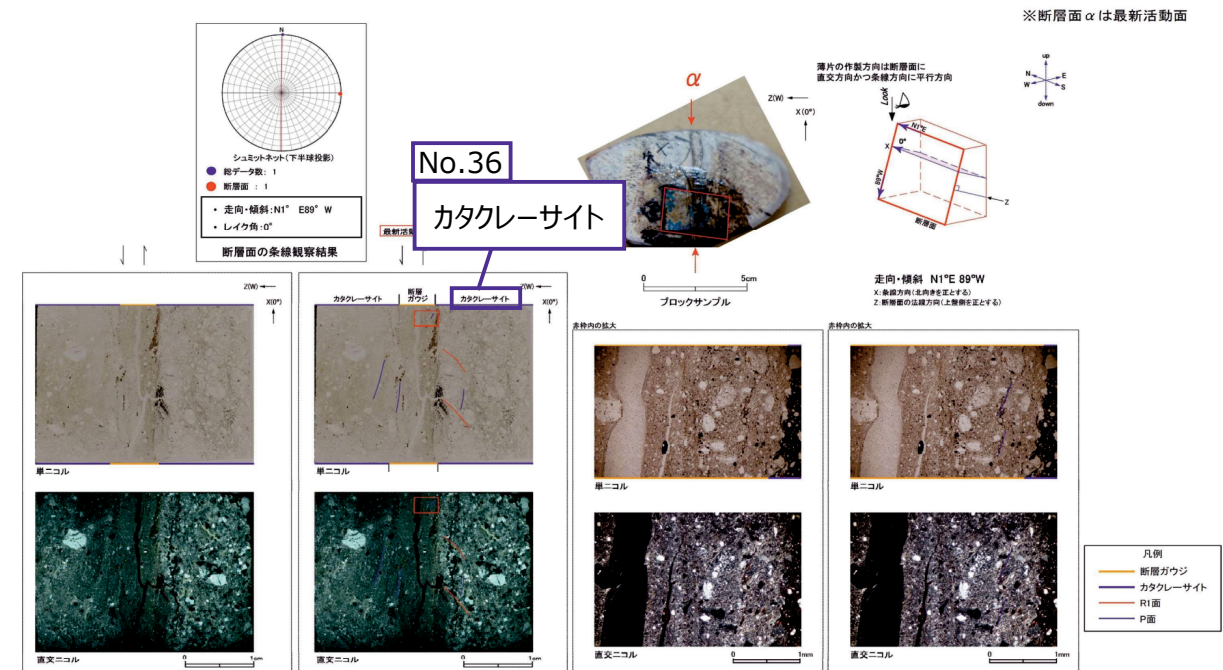
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H27-B-1 深度44.31m)

H27-B-1のボーリングコア(深度44.31m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。



・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。  
・最新活動ゾーン以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。  
➢ (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。  
➢ (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。  
➢ (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。  
➢ 岩片は少ない。



第7.4.4.263図(3) 破碎部性状 H27-B-1 深度44.24~44.53m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

H27-B-1 深度46.12~46.17m 最新活動面を示す矢印の位置 (No.37) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-188頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破砕帯

性状一覧表(16/19)

No.37

(赤矢印位置)

(No.最-22で説明)

(No.最-22で説明)

(No.35-2で説明)

(No.33で説明)

(No.34で説明)

(赤矢印位置)

No.37

(No.最-22で説明)

No.37

(赤矢印位置)

(No.35-2で説明)

(No.33で説明)

(No.34で説明)